

第356回教員会議 議事要録

日 時：令和5年8月2日（水） 13：30～14：20

場 所：理工学類大会議室

議 題

◆教員会議◆

[報告事項]

1. 学類長

(1) 共生システム理工学類の将来構想について

資料1-1、1-2にもとづき、学類長より教育研究組織整備「水素エネルギー総合研究所」の申請について説明があった。評議員からは、補足として設備更新についても2億8千万円で申請しているが、さらに技術職員2名、URA1名と関連プロジェクトの特任スタッフ3名についても計上しており、これらが認められれば教員の負担減につながるとの説明があった。

次に資料1-3～1-5に基づき、高度情報専門人材の獲得に向けた機能強化に係る支援の採択と概要について報告された。教授からは今後の取組について、なるべく教員の負担を軽くするよう、相談しながらやっていきたいと協力依頼があった。

続いて、関連する教員採用人事について学類長より、7月25日の教育研究院会議において今年度中に2名、水素研究所の所長クラスと情報系の教員各1名の採用について先行して行うことが承認されたことの報告があった。なお、高度情報専門人材の交付金額は減額される可能性があるが、現時点では7名（情報5名、メカトロ2名）を計上している。令和5年度に5名（情報4名、メカトロ1名）、令和6年度に2名と分けて公募する計画となっている。既に、関係する分野長2名には公募書類の作成をお願いしている。

居室スペースについては、理工学類内でのプロジェクト研究室等の見直しだけでは対応が難しいため、学長、局長、施設課へ要望を出す予定である。

今後の公募スケジュールは、8月8日の教育研究院会議で承認された後、9日の理工・人事委員会で公募要領を確認し、23日の教員会議で審議のうえ公募を開始することになる。

准教授より、今年度中に採用するという事は、今年度中に配置されるということかとの質問があり、学類長より、先方の事情もあると思うがクロアボ等も使いながらできるだけ今年度採用の可能性を追求したいとの回答があった。

教授より、定員増に伴い受験者数の確保が難しくなる、今年度の広報活動をしっかりやっていってもらいたい。早い時期、2年生の春には理工学類に興味を持ってもらえるようにしたい、との意見があった。

別の教授より、本学の強み、ここを強化したいというようなことがあれば伺いたいとの意見があり、学類長からまずは情報が核となる取組で、重点的に情報の教員を強化したい、メカトロについては学生の人気もあるが理工の工の部分の部分が薄いので補強したい、との説明があった。

[その他]

1. その他

入試委員長より、博士前期課程入試のⅠ期志願者数が62名となった、委嘱状を近日中に配布するとの報告があった。

また、共生システム理工学研究科の入試では、第Ⅰ期受験時に仮にコロナ感染したとしても、第Ⅱ期に受験してもらうように案内する方法があること等から、コロナ罹患者に対する対応を取らない方針であることが報告された。

教授より、Ⅰ期で定員を充たした場合、Ⅱ期をどうするか、学生からするとⅠ期とⅡ期でどちらが合格

に有利かと考えるが、との質問があり学類長からⅠ期で定員を充たしてもⅡ期も試験を行う。なお、今回の受験者は分野に偏りがなく、入試説明会ではこれまでⅠ期で定員を充たしてもⅡ期でも合格を出しているということは説明済みである、との回答があった。

2. 懲戒処分に関連して

学類長より、研究費不正使用（カラ出張）での懲戒処分が下された報告とそれに関連し、旅費の証拠書類提出について、今まで以上に厳密に求められるとの報告があった。

准教授より、学外者に対して提出してもらふ書類に変更はあるのか、との質問があり支援室長から、学外者については、出張報告の代わりとして、旅行依頼した教員が作成する出張完了した報告書を提出することとなる、また科研費以外でも学生の出張報告書は提出が義務づけられるとの回答があった。

なお旅費手続きの変更等の教員への周知については、今後行われる予定であると補足があった。

以上